

レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系阻害薬（ACE 阻害薬）

による治療を受けている患者さまおよび保護者のみなさまへ

## 臨床研究「レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系阻害薬によるアルギニン-バソプレッシン分泌亢進」開始のお知らせ

レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系阻害薬（ACE 阻害薬：インヒベースやエナラプリルなど）は慢性心不全治療薬として最も良く使用されている薬剤の一つです。その副作用の一つとしてアルギニンバソプレッシンというホルモンの分泌が亢進することが知られています。このホルモンが過剰に分泌した場合は心不全の増悪と同じような症状が出現し、元々の病気が悪くなってしまうと判断されることがあります。これを早期に的確に診断する方法を明らかにするのがこの研究の目的です。

この研究は治験（新薬開発のための臨床試験）とは違います。この研究のために特別な検査を行ったり、特別な薬を投与することはありません。日常診療の範囲内で行い、診療録（カルテ）情報を使用させていただきだけです。

この調査により小児循環器医療をさらに充実させ、日常診療の質を向上させることができると考えています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

\*この研究は当センターの倫理委員会での承認を受けております。お子さまの個人情報厳重に守ります。外部に漏れることはありませんのでご安心ください。

\*この研究の詳細をお知りになりたい方は看護師を通して担当医にお申し出ください。

平成 29 年 4 月 1 日

北海道立子ども総合医療・療育センター 循環器病センター長 横澤正人  
北海道立子ども総合医療・療育センター センター長 鈴木信寛